

## 中学校・道徳の内容項目の解説

# 生命尊重

### ●中学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること	[一般的な呼称例]
(1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。	生命尊重

### ●解説

全体的な理解	<p>生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。</p> <p>自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることである。生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命をも同様に大切にすることははずだという予想と期待があるからである。また、ここでは、主として人間の生命について考えるが、人間以外のすべての生命の尊さについても価値を置きながら考えなければならない。</p>
発達的な観点	<p>近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間とのかわりの希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり生命の尊さについて考える機会を失いつつある。また、中学生の時期は、比較的健康的に毎日が過ぎせる場合が多いためか自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。</p>
指導の着眼点	<p>指導に当たっては、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳に気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば、自分が今ここにいることの不思議、生命にいつか終わりがあること、生命はずっとつながっていることなどを手掛かりに考えさせることができる。自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。さらに、2の視点や4の視点との関連のもとで、人間の生命は、人間関係の中で保たれるという側面があることも考えさせることが求められる。一人一人の生活、居場所が保障されることで、人間は、その生命を全うすることも忘れてはならない。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

### ■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

3 主として自然や崇高なものとのかわりに関すること	[一般的な呼称例]	
低学年	(1) 生きることを喜び、生命を大切にすることを学ぶ。	生命尊重
中学年	(1) 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。	生命尊重
高学年	(1) 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。	生命尊重